

# 平成30年産 普通期水稻育苗情報

平成30年4月  
北筑前普及指導センター  
J A む な か た

## 床土の準備

### ①黒粒培土の場合

- ・床土 2.5kg+覆土 1kg が目安。
- ・昨年開封した残りは使用しない(カビ等が発生しやすい)。

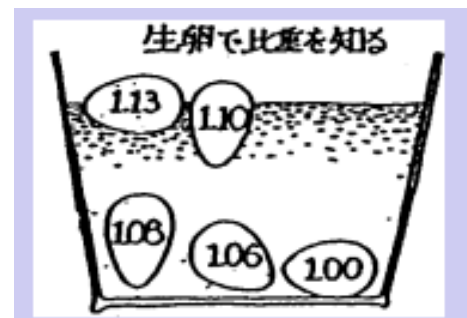
### ②山土の場合

- ・pHが 5.0~6.5 (5.0~5.5 が望ましい)のものに、籾殻くん炭を容積比で3割程度混ぜる。
- ・1箱当たり4~5ℓ準備し、播種1週間前に育苗肥料 4-4-4 を1箱当たり 25g(500g/20箱)よく混ぜる。
- ・休耕田や紋枯病多発田、畑作後の土は使用しない。

## 塩水選

- ・浮き籾が多い場合は、塩水濃度を比重 1.08 まで薄めても問題ない。(うるちの場合)
- ・塩水選が終わったら、よく水洗いする。

比重	水 10ℓ に溶かす量	
	食塩	硫安
1.06 (もち)	0.86kg	1.07kg
1.08 (うるち)	1.11kg	1.46kg
1.10 (うるち)	1.42kg	1.92kg



※ちなみに海水の比重は 1.03 です

## 種子消毒

- ・下記の2つの薬剤混用で、**24時間浸漬**する。

農薬名	種子	希釈水量	薬量	倍率
テクリードCフロアブル	10kg の場合	20ℓ	100 ml	200 倍
スミチオン乳剤			20 ml	1000 倍

◎種子消毒後は軽く薬液をきって、そのまま浸種にはいる。(風乾や水洗いの必要は無い)

◎種子消毒、浸種については、籾袋の中心まで薬液が浸透するよう、袋に籾を詰め過ぎないようにする。

(袋満杯の 6~7割程度 で余裕を持たせる)

## 浸種・催芽

- ・1日1回、水を交換する。
- ・催芽機利用の場合は、初日から加温しない(目安 30℃以内)。
- ・浸種に要する日数は、平均水温20℃で5日(積算温度 100℃)。
- ・播種前日に種子を取り出し、催芽処理を兼ねて水切りを行う。
- ・仕上げはハトムネ状態(幼芽長 0.5~1.0 mmで9割程度芽を切ったことを、しっかり確認する。)



## 床土消毒・播種 薄まきで、丈夫な苗を！

### 【苗の種類と播種量の目安】

苗の種類	目標葉齢	播種量/箱		育苗日数	箱数/10a
		乾籾	催芽籾		
3葉苗	3.1～3.5 葉	120g	150g	20～25 日	20～25 箱
ポット苗	5.1 葉以上	50g	63g	35～40 日	40～50 枚

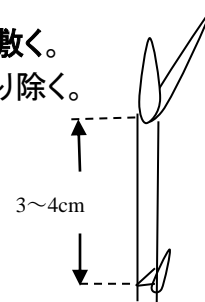
・準早期(5月田植え)については育苗日数が25日～30日。

農薬	使用方法	適用病害虫	使用回数	使用時期
ダコレート 水和剤	400倍液(10ℓの水に薬剤25g)を 一箱当たり500ml 灌注	いもち病 苗立枯病	1回	は種時

・種子消毒とダコレート水和剤灌注を組み合わせると、いもち病に効果が高い。

### 平床出芽

- ・播種後、日当たりの良い水平なところに育苗箱を広げ、太陽シート等かける。
- ・地面に直接箱を敷くと、湿害の恐れがあるので育苗箱の下に、パイプ又はりん木を敷く。
- ・降雨、露等で太陽シートの上に水がたまったら、早急に太陽シートをはぐり、水を取り除く。  
(水がたまったところは、発芽不良になる)
- ・苗長が3～4cmになったら被覆資材を除去する。



### 積み重ね出芽

- ・積み重ね場所は、水平な日当たりのよい場所で行う。
- ・積み重ねは10～15段とする。(多く積み過ぎると段の上と下で温度差が出て、芽の出が異なるため)
- ・りん木を箱の下に置く。 段同士の隙間を開けて風通しを良くしておく。

#### ① 出芽

- ・積み重ね内部の温度が32℃を超えないようにする(25～30℃が目安)。
- ・積み重ね日数は2～3日間。芽が出そろったら(芽長0.5～1cm程度)、直ちに広げる。

#### ② 緑化

- ・黒寒冷紗や黒色ラブリットシートで覆い、緑化を行う。
- ・第1葉が展開し、苗長が3～4cmになったら被覆資材を除去する。

### 【水やりのポイント】

- ・過剰な水やりは根張りを悪くする。
- ・灌水は、朝に十分行い、夕方の灌水は避ける。

### 追肥・弁当肥

- ・田植えが予定より遅れ、育苗期間が長くなる場合や、育苗後半に葉色が落ちた場合は、硫安300倍液をジョロで灌注する。

硫安水300倍液 田植え3～5日前 500ml/箱

硫安を水10ℓに溶かす量  
約30g